

# 特集 第5回クルマ・文化・社会・パートナーシップ大賞(CSP大賞)

## 多様な取り組みの一助に

### 今回から「クルマ文化の向上」もテーマ



日本自動車会議所 感謝表彰  
第5回 クルマ・文化・社会・パートナーシップ大賞

日本自動車会議所(豊田章男会長)は、第5回(2025年度)クルマ・文化・社会・パートナーシップ大賞(CSP大賞、共催)日刊自動車新聞社の受賞者を決定した。大賞は、アイシンの乗り合い送迎サービス「チョイソコ」が受賞した。地域の移動課題に応じたデマンド交通を展開し、高齢者支援と交通利便性向上に寄与したことが高く評価された。大賞に次ぐ、選考委員特別賞はウエルカムライダーズおがの(埼玉県小鹿野町、共同応募)小鹿野町の「オートバイによるまちおこし」とトヨタ自動車の消防の課題解決プロジェクト「ドライブレコナー119」を選定した。

### 認知高まり活動に自信も

5回目となる今回は、昨年10月のエントリー開始から12月末までに、全選考委員が表彰にふさわしい取り組みとして「グッドパートナーシップ事業」38事業を選定した。さらに38事業の中から、表彰の目的や日本自動車会議所のビジョンに合致する取り組みとして大賞と選考委員特別賞、各部門賞を決定した。応募対象となる取り組みは①クルマにかかわる文化の向上につながる取り組み②クルマのファン



それぞれの素晴らしい取り組みが世の中に広がっていく一助になればとの思いから、21年に創設した。今回から「クルマをニッポンの文化に!」という活動ビジョンに合わせて名称を変更し、制度的目的や応募分野にも「クルマにかかわる文化の向上」を追加した。第4回までに自動車メーカーや部品メーカー、自動車販売会社、自動車関連企業のほか、地方自治体や業界団体など83社・団体が受賞した。これまでの受賞者からは「業界から評価されることは励みになる」「取り組みの認知が高まり、より幅広く活動できるようになった」「社員が自分の会社で自信を持てるようになった」などの喜びの声もあがっている。

## さまざまな貢献活動に感謝

### 地域と企業でつくる持続可能な公共交通

### 大賞 デマンド交通システムで高齢者などの移動をサポート



「チョイソコ」は、地方などで進む公共交通網の縮小や高齢化に伴う免許返納などで日常の移動が困難な「移動弱者」や「買い物難民」が社会問題化していることを受け、同社のナビゲーション技術や位置情報解析、ルート生成技術を生かして、2018年に開発した。25年12月時点で全国90エリア以上で展開している。きっかけは愛知県豊明市の社会福祉費の増加だった。高齢者がデマンドバスに頼らずに外出できる環境づくりに向け、同社が開発したデマンド交通システムを市に提案。そこから乗り合い送迎サービスの導入に向けて動き出した。コミュニティバスの実態調査、個別ヒアリング、住民調査などを行い、停留所候補地の選定や車両サイズ、制度設計などを行ってきた。各地の運営となる地域企業、とくに自動車ディーラーは自治体と連携



### アイシン

「受賞者コメント」CSP大賞という栄えある賞を賜り、心より感謝申し上げます。チョイソコは、公共交通網の縮小や高齢化に伴い、地域に最適な移動の仕組みを構築してきました。単なる移動手段の提供にとどまらず、外出を促す「コトづくり」の取組を通じて、地域活性化とQOL向上への貢献を目指しています。本賞を励みに、持続可能な公共交通の新たなスタンダード創出に挑戦し続けます。

## 選考委員



選考委員長  
帝塚山大学名誉教授  
一社)日本自動車連盟副会長



選考委員  
公財)交通エコロジー・モビリティ財団理事長



選考委員  
ユーティリティ会長  
兼)ニアフェロー



選考委員  
オルタナ代表取締役社長  
「オルタナ」創刊編集長



選考委員  
公財)日本財団  
パラスポーツサポートセンター  
競技団体支援部ディレクター



選考委員  
第一生命経済研究所  
常務取締役



選考委員  
日本自動車会議所専務理事



選考委員  
日刊自動車新聞社代表取締役社長  
敬称略



### 地域・コミュニティ活性化賞

## 自転車から広がる地域の未来



愛三工業は交通安全サイクリングイベントなどを展開する「自転車学校」を2013年に愛知県大府市とともに開始した。さらにサイクリングを楽しむだけでなく、自転車通学時の交通ルールを含む交通安全教育の要素を取り入れるため、

**愛三工業**  
共同応募：愛三工業レーシングチーム  
「自転車教室」を開始し、日本全国の学校を訪ね、交通安全教育は未就学児から高校生を対象に、自転車の安全な乗り方や交通ルールを指導する教育を継続開催している。親子で参加可能な体験型プログラムなどを通して、楽しみながら交通安全意識を高める活動として、中学生向けには警察や自治体と連携し、通学時の危険回避やヘルムン守について伝えていく。また、現

### モビリティ文化振興支援・地域課題解決貢献活動

「受賞者コメント」この度は、地域・コミュニティ活性化賞に選定いただき、誠にありがとうございます。多様なモビリティの特性を理解し、それぞれの特長を掛け合わせることで、モビリティの新しい価値を創出し、子育てやスポーツ振興活動、繋げてまいりました。今後もモビリティの魅力を最大限に活用し、日本全国の地域とコミュニティの活性化に貢献してまいります。あがらう、いけごまご。

役の自転車競技選手が講師を務めるキャリア教育と青少年育成も実施。愛知県新城市で行われた自転車ロードレースイベントでは、車両特性の異なるクルマ・自転車・オートバイが同じコース上で相互に安全を保ちながら高速で走行する安全共存を実現し、モビリティの新たな価値を発信した。同イベントではモビリティの多様性、親和性を提案し、触れる場を設け、移動手段の可能性も示した。今後は中学生に向けた自転車整備講座の実施なども計画している。

### 地域・コミュニティ活性化賞

## 災害時の避難所環境改善へ



三井住友海上火災保険は、2024年3月から日本キッチンカー経営審議会と連携し、避難所環境の改善に向けた取り組みを推進している。適温食や嗜好食を機動的に被災地に提供できる。24年3月には、茨城県同審議会と、自治体との

**三井住友海上火災保険**  
事前協定締結ルートや、被災時の安全な支援実施に向けたナレッジを持つ同社が連携。これにより被災時の避難所環境改善に向けた取り組みを推進している。24年3月には、茨城県同審議会と、自治体との三者協定を締結した。25年6月には埼玉県庁と三者協定を締結した。これを機に、同年9月にはポータル電源などの生産、販売を行う「BLUETRI

### 日本キッチンカー経営審議会と連携

「受賞者コメント」この度は、地域・コミュニティ活性化賞に選定いただき、誠にありがとうございます。弊社は地域の防災力向上に資する様々な取組を検討する中で、避難所環境改善に着目し、「日本キッチンカー経営審議会」との共創モデルを企画。各地に展開しています。引き続き、各自治体とも連携しながら、有事に適温食や嗜好食を機動的に提供すること、避難所生活の環境を改善し、地域社会の回復力と強靭性向上に貢献していきたいと思っております。

「JAPAN（ブルーティジャパン）」から災害時にポータル電源を貸与するための三者協定を締結した。茨城県・埼玉県・さいたま市などの取り組みを通じて、各地で類似した内容の展開・検討へと派生。トレーラーカー、キャンピングカーなどの事業団体との連携を模索する動きが加速した。またこれらの取り組みを内閣府（防災）へ共有したところ、その他のさまざまな災害対応車両活動と合わせて、災害対応車両検索システム「DIT RACE」が創設された。

### 環境貢献賞

## 地域の歴史と文化を未来に引き継ぐ



トヨタ紡織は、自社工場がある岐阜県で「企業との協働による森林づくり」事業の第1号として、中津川市加子母での協定を2008年4月に締結し、森づくりを本格的に開始した。「木曾ヒノキ」の名産地の加子母は、伊勢神宮式年遷宮材や名古屋城丸御殿の復元材としても使われる良質な木材を育てる。活動開始直後は、広葉樹1種、針葉樹1種を中心に植栽し、累計植樹本数は4790本を数える。

**トヨタ紡織**  
共同実施：加子母森林組合ほか  
む地域だ。同社は企業がある地域の歴史と文化を尊重し未来に継いでいくことを重視し、同地域での森づくりに着手した。取り組みは社員参加型モデルとして位置付け、休日に社員と家族が「自分以外の誰かのために」という思いで活動を推進してきた。活動開始直後は、広葉樹1種、針葉樹1種を中心に植栽し、累計植樹本数は4790本を数える。活動は「森林整備」「環境教育」「交流・体験」から成り立つ。年間計画をもとに、間伐、下草刈り、遊歩道整備を継続。間伐材からベンチを製作、クリーン活動や家族で楽しめる火起こし、釜炊飯など森と暮らし

### 社員参加型で「森林づくり」活動

「受賞者コメント」この度は、環境貢献賞に選定いただき、誠にありがとうございます。弊社社会貢献活動の一である「加子母の森づくり」活動を通じて、地域や自治体と協働し、地域活性化に取り組んでいます。未来を担う若者への環境教育の場として、またトヨタグループの一員として「自分以外の誰かのために」地域課題の解決に向け、皆で手を共に組み、成長し続けてまいります。

を結ぶ学びの場も提供される。さらに、森を中心とした人の輪を広げる活動や自然の循環と資源の有効活用を体験できる場など、森づくりが保全活動としてだけでなく、スポーツ、教育、文化へと広がる取り組みとなっている。

### 地域・コミュニティ活性化賞

## 環境と文化の両立を目指して



アデル・カーズ（池永成正社長、熊本市南区）は、「人を大切にし、多様性と個性を受け入れる文化」を育んでいる。継続中の環境保全活動に加え、これまで受け継がれてきた車の役割や価値も大切に、環境と文化の両立を目指す。そこそがな姿勢であるとの考えだ。この一環で、環境保全、カルチャーとヒストリーの継承、地域社会との連携の3つの切り口を

**アデル・カーズ**  
三位一体で実現する取り組みに尽力している。電気自動車の積極的販売によるCO<sub>2</sub>排出量削減、森林Jクレジットやブルーカーボンの購入によるCO<sub>2</sub>吸収源の支援に加え、地域の地下水保全を目的とした植樹・田植えなど社内行事で収穫した米を熊本市内のひとり親家庭に届けてきた。一方で車文化の継承を使命に掲げ、クラシックカーなど「アデルコレクション」を5つの展示スペースを常設する。「こどもまんなかプロジェクト」は、家庭で不要になった子ども服や食料品を回収し、必要と

### 多様な活動通じ「善いことを続ける」

「受賞者コメント」この度は、弊社がCSP大賞地域・コミュニティ活性化賞に選定いただきました。昨年のSDGs貢献部門賞に続き、2年連続で受賞しました。大賞を光栄に感じ、弊社は、すべての判断を損得ではなく善悪で行う基本理念として掲げます。今後も、おきさま、社員おみそのご家族、お取引先さま、そして地域の皆さまへ「善いことを続ける」を掲げ、持続可能な社会の実現に向け、何事にも真摯かつ誠実に取り組んでまいります。

これらの活動を通じて社員が思いやりと優しさを一層抱くようになり、「善いことを続ける」という同社の価値観が顧客を含め地域社会に浸透しつつある。

### 環境貢献賞

## 端材活用した新ブランド立ち上げ



東海理化は、2022年に端材を活用したアップサイクルブランド「THINK SCRAP」を立ち上げた。同ブランドは、自動車用シートベルトの端材を活用したハンドバッグやポーチなどの製品開発を行っている。ただごみを減らすことを目的としたのではなく、素材を紹介したシートベルト端材の約13%を製品として生かしている。同ブランドの製品は自社ECサイトやポップアップショップなどで販売しているほか、博物館やクルマの展示会、イベントでも販売している。また、学校と連

**東海理化**  
「受賞者コメント」この度は、環境貢献賞に選定いただき、誠にありがとうございます。東海理化のアップサイクルブランド「THINK SCRAP」は、世界に誇る技術と安全を支えてきた自動車部品の価値を再評価し、次の役割につなげる取り組みです。シートベルト端材を地域の縫製工場や協力メーカーの資材として活用し、販売を通じてクルマ文化の魅力を多くの方へ届けました。今後も本活動を、循環する社会の実現を目指してまいります。

### 廃棄予定のシートベルト端材13%を生かす

「受賞者コメント」この度は、環境貢献賞に選定いただき、誠にありがとうございます。東海理化のアップサイクルブランド「THINK SCRAP」は、世界に誇る技術と安全を支えてきた自動車部品の価値を再評価し、次の役割につなげる取り組みです。シートベルト端材を地域の縫製工場や協力メーカーの資材として活用し、販売を通じてクルマ文化の魅力を多くの方へ届けました。今後も本活動を、循環する社会の実現を目指してまいります。

携し、学生が企画販売・情報発信にかかわる機会を創出。サステイナブルなものづくりを体験的に伝える場となっている。廃棄物削減、文化発信、地域経済、教育連携を同時に実現する、持続可能なモデルとして効果を発揮している。

### 環境貢献賞

## 次代の子どもたちに地域の環境つなぐ



ブロードリーフは、2008年から企業参画型環境保全活動「Grow Leaf（グロリーフプロジェクト）」を行っている。このプロジェクトは、子どもたちがその先の世代の子どもたちに豊かな地域環境をつなぎ、多様な社会の実現を目的として設立した。リソース不

**ブロードリーフ**  
ブロードリーフは、2008年から企業参画型環境保全活動「Grow Leaf（グロリーフプロジェクト）」を行っている。このプロジェクトは、子どもたちがその先の世代の子どもたちに豊かな地域環境をつなぎ、多様な社会の実現を目的として設立した。リソース不足を克服し、23年から3年連続で植樹イベントを実施している。24年には山梨県に企業の森「ブロードリーフの森」を設立。累計植樹本数は2181本に達した。25年には、東京都品川区「令和6年度環境保全活動

### 独自の貢献活動を17年間展開

「受賞者コメント」この度は、環境貢献賞に選定いただき、誠にありがとうございます。創業20周年の節目に、18年に引き続き「Grow Leaf（グロリーフプロジェクト）」を評価したい。弊社は、社会にとっての善いこと、長年志をたし、本活動を支えてきた各企業様の協力を心より感謝申し上げます。今後も持続可能な循環型社会の実現と、豊かなクルマ社会の両立に向けて邁進してまいります。

顕彰」で最高賞「企業大賞」を受賞した。25年12月時点で125社が参画している。同プロジェクトを通してクルマ社会における事業貢献と地域経済への活性化に貢献していく。

### くるまファン拡大賞

## 「夢のくるまコンテスト」に協力

### 豊田自動織機



豊田自動織機は1994年以降、同社長草工場が立地する愛知県大府市の働きかけにより、同市が主催する「夢のくるまコンテスト」に30年以上にわたり継続的に協力している。

このコンテストは、市内の小学校9校の5、6年生を対象に、夏休みの自由課題として子どもたちが描いた「夢のくるま」の中から優秀作品を選出して表彰するもので、応募は毎年千件を越える。同社では、この優秀作品を基に自社のカーデザイナーやカーモデラーがモデルカーやレンドラリング画を制作し、入賞した子どもにこれをプレゼントしてきた。2011年から、コンテストの事前学習として「未来のくるま学習」を開始した。カーモデラーが講師となり、市内の小学校5年生に自動車の魅力やデザインの面白さを伝えている。

活動に参加した同社デザイナーも地域に直接貢献し感謝されることで、本来の

### 地域とつながり次世代の創造力育む

「受賞者コメント」のなかには「くるまファン拡大賞」を受賞させていただき、大変光栄です。地域とつながり、次世代の創造力育むことを目的に約30年を継続して実施してきた本活動は、地域行政や学校をはじめ、多くの協力の賜で継続することができました。

本年からは、さらに小学生向けの場見学も立ち上げ、今回受賞の活動と連携させることで、次世代を担う子どもたちにも「くるま」の魅力が伝わるよう努めてまいります。

これらの取り組みは、自動車産業が地域の主要産業の一つとなっている同市において、地域と自動車産業をつなぎ、次世代の創造力を育む活動となっている。



### くるまファン拡大賞

## 女性ライダー特化の交通安全講習

### チームマリ



女性専用ライディングスクールを運営するTeam MARI(チームマリ、井形とも代表取締役、東京都港区)は、海外展開の一環として、2025年9月にシンガポールで安全運転講習を初開催した。1988年の設立以来、日本国内で600回以上の講習を実施し、延べ1万7千人以上の女性に二輪車の安全運転技術を指導してきた実績を持つ。

国内で培ったノウハウを基盤に「女性が女性に教える」独自メソッドを海外へ展開する。姿勢・視線・操作の連携による無理のない車体コントロールや、低速域の安定操作、危険予知能力の向上を柱に据え、免許取得直後の事故防止を重視した指導を行っている。

講習は政府系講習所を会場に2日間開催し、18歳から50代まで計39人が参加した。宗教・文化への配慮や夜間開催への対応、安全管理体制の徹底など、現地環境に適応した運営が特徴だ。受講者の技術向上と安全意識の醸成に加え、女性ライダー同士のコミュニティ形成にもつながっており、現地講習所は女性向け講習の継続実施を決定した。

### 「女性が女性に」メソッドを海外にも

「受賞者コメント」37年に渡る女性ライダーに特化した二輪の安全運転講習活動が海外での開催に繋がり、予想以上の相乗効果を得られ、今回の受賞に至った。二輪は、安全に対する意識が低い。二輪は、安全に対する意識が低い。二輪は、安全に対する意識が低い。

この取り組みは、日本の安全運転教育の知見を国際的に共有し、女性の移動の自由と安全の両立を後押しする取り組みとして評価されている。今後もアジアを中心に活動を拡大し、持続可能な交通社会の実現に貢献していく考えだ。



### くるまファン拡大賞

## 交通社会の「安全・安心」意識を拡大

### 神奈川スバル



神奈川スバル(中村重人社長、横浜市港北区)は、「愛される神奈川スバルになる」・SUBARUのクルマづくりの思想とファンづくりをテーマに、人の命を大切にするとともに、交通社会の「安全・安心」の意識を広げる活動に取り組む。

安全・安心の意識を拡大する取り組みの一環として、スバルグループの次世代育成にも注力している。2025年に開催された「ジャパンモビリティショー」に内定者を招待した。次世代モビリティや自動車業界の未来を体感してもらおうと、将来を担う人材とファンづくりに注力している。

「受賞者コメント」この度は「くるまファン拡大賞」という栄誉ある賞を賜り誠にありがとうございます。本取り組みは、SUBARUのクルマづくりの安心・安全、そして神奈川スバルが掲げている「愛される神奈川スバル」の理念を多くのお客様の共感のもと、体感の機会を通じて形にできた成果と感謝いたします。今後も神奈川スバルの広がりを背景に、未来につなげてまいります。

### 多様な活動通じ価値を体感し思い共感

「受賞者コメント」この度は「くるまファン拡大賞」という栄誉ある賞を賜り誠にありがとうございます。本取り組みは、SUBARUのクルマづくりの安心・安全、そして神奈川スバルが掲げている「愛される神奈川スバル」の理念を多くのお客様の共感のもと、体感の機会を通じて形にできた成果と感謝いたします。今後も神奈川スバルの広がりを背景に、未来につなげてまいります。

通じて、価値を体感し、思いを共感する機会を重視することで、社員エンゲージメントと顧客ロイヤルティが向上した。同社は、今後も地域に愛される存在として、ファンづくりに注力していく。



### 「ありがとう」と感謝を伝えた



自動車業界で働く550万人と自動車ユーザーによるさまざまな貢献に「ありがとう」と感謝を伝えたいとの思いで、2021年にCSP大賞が創設された。以来、一般公募を中心に多

くの取り組みがエントリされた。多くの学びを得られ、またこれを発信できたことは主催者冥利につきる。

一方で、公募方式を採用する表彰制度では、まずは応募したいできないという組み合わせに出不いという仕組み上の限界もある。もっと多くの取り組みを紹介し、感謝を伝えたいとの思いが年々募っている。応募されなかったものの、感謝を伝えたい地道で継続的な取り組みにいかにか光を当てて、主催者として試行錯誤を続けている。

誰しも、日頃のニュースや情報交換を通じて、さまざまな素晴らしい取り組みを耳にしているはず。印象に残った事例に限っても枚挙にいとまがない。

例えば、国際自動車(東京都港区)が23年以降継続している路上寝込み者などの保護による街の安全・人命貢献活動。静岡県藤枝市が高齢者や交通弱者を

対象に展開する移動支援プログラム。自動車メーカーの福祉車両ラインアップの開発と社会普及に尽力した技術者の取り組み。つばめタクシー(熊本県人吉市)の「親孝行タクシー」事業。東京の2020オリンピックパラリンピック競技大会における輸送バス台数確保に関する取り組み。ヤマザキパンによる、災害時におけるパンの無償配布による地域支援活動。羽田空港での滑走路衝突事故に伴う茨城空港へのタイパットに関する関東鉄道バスの対応事例など。

これらの幅広い事例は、応募されなかったものの、実はまさにCSP大賞としては非感謝を伝えたい取り組みでもある。社会的意義を優先し、自身のビジネスの犠牲を負った上で自発的に公益に資する行動や、社会に資する製品やサービスを世に送り出すことで人々の生活の質の向上に寄与した個人の取り組みなどは、積極的に応募される場合が少ないのが現状だ。他薦も含め何とか光を当てて感謝の意を伝えたいところだ。

### グッドパートナーシップ事業(大賞、選考委員特別賞、部門賞受賞事業を除く、順不同)

- 東海理化(愛知県大口町) 新開発ベイト剤と官民協働で防除効率は改善し自治体の環境対応力を高めた活動
- 奈良トヨタ(奈良県奈良市) レストアと博物館運営で技術継承と人材育成を促進し自動車文化発信に寄与
- 東海理化(愛知県大口町) AIで乗客行動を検知し警告する安全システムを導入しバス車内事故削減に寄与
- ネットトヨタニューリー北大阪(大阪府豊中市) 交通安全・防災フェスタと店舗開放で地域交流を生み街の安心と活力向上に貢献
- ホンダカーズ岐阜(岐阜県岐阜市) 幼児向け教材を使い信号や横断方法を指導し子どもの交通安全理解を深める活動
- レモリフ(香川県高松市) モビリティ循環とDX・人材支援を組み合わせた地域企業の課題解決と活性化に貢献
- ホンダカーズ長野中央(長野県長野市) 絶滅危惧種の保全活動を地域と協働し環境保全と地域参加の輪を拡大
- 明星金属工業(大阪府大東市) 金型製作紹介や工場見学で技術理解と職業教育を促進しものづくりの魅力を発信
- トヨタ博物館(愛知県長久手市) 企画展やヘリテージ車体体験を通じて日本車文化を広く発信し理解促進に貢献
- Hyundai Mobility Japan(横浜市西区) EV寄贈や電動バス導入で地域脱炭素化と防災力強化を支え次世代交通を推進
- トヨタモビリティ東京(東京都港区) 4拠点の特色施設で地域イベントや交流を創出し新しい地域貢献モデルを展開
- 島根トヨペット(島根県松江市) 働く車の展示と仕事体験イベントで子どもに職業理解を広げ地域の活力向上に寄与
- トヨタカラー香川(香川県高松市) 車中泊旅や災害給電の体験企画で地域観光振興と防災意識向上に貢献
- 日野自動車(東京都日野市) GPS連携で荷待ち時間を自動把握し業務効率化と物流課題解決に寄与
- 学校法人柳心学園(鳥取県米子市) 安全講習や奨学金設立で地域の交通安全と未来人材育成に広く貢献
- トヨタ・コニック・プロ(東京都千代田区) 買物支援とデータ活用で地域の暮らしを改善し健康増進と共創モデルを構築
- 愛媛日産自動車(愛媛県松山市) LV・EV展示と相談体制を整え地域の移動課題解決と防災支援に寄与
- OKISHU(東京都中野区) 交通安全を楽しく学べる活動で女性や子どもへの意識向上と地域連携を促進
- KPMGモビリティ研究所(東京都千代田区) 多様な参加者と運行タスクを検討し実証運行で自動運転社会実装を推進
- KCG GROUP(東京都中央区) 本格的な自動車職業体験で次世代へ技術理解を深め未来の担い手育成に寄与
- 日本自動車連盟(東京都港区) SNS投稿企画でオフィシャルへの感謝を拡散し認知向上と交流促進に貢献
- GNホールディングス(群馬県前橋市) 草津町と異業種3社とで連携しEV導入や防災・資源循環を調査し持続可能な町づくりを推進
- メーカーズ(福岡市西区) 子ども食堂とカレールー購入運動企画を開始し地域交流促進とスタッフ意識向上に寄与
- ウエインズインポートカーズ(横浜市西区) 障がい者アート展示と寄付連動企画を実施し地域共創と社員意識向上に寄与